

基 礎 分 野

科学的思考の基盤

授業科目	担当講師名	単位数	1 単位	対象学年
コミュニケーション論	大坪 治彦 24 H 専任教員 6 H	時間数	30 時間	1 年次
学習目標（ねらい）				
1. 人間対人間の関係における人間理解を深めるため、コミュニケーションの基礎について理解する。				
2. 看護実践に必要なコミュニケーションを理解し、人間関係構築のスキルとツールの活用の基礎を習得する。				
回数	単元：学習のねらい		方法	学習上の留意点
1	関係的存在としての人間、人間関係の発達について考え、看護専門職として人間関係に関連する概念、理論、スキルを学ぶ意味を考える		講義	人間関係論 はしがき～1 章
2	対人関係の成立、維持と崩壊、対人葛藤と対処、社会的役割について理解できる		講義	人間関係論 2章
3	態度と対人行動について学び自己の対人行動について具体的に例をあげて考えることができる		講義 個人ワーク	人間関係論 3章
4	集団が個人の行動・課題遂行・問題解決法・意思決定に与える影響について理解できる		講義 個人ワーク	人間関係論 4章
5	人間関係を形成するためのコミュニケーションの基礎的知識と対人コミュニケーションの特徴について理解できる		講義	人間関係論 5章
6	カウンセリング・心理療法の理論と技法について理解できる		講義 個人ワーク	人間関係論 6章
7	コーチングの理論と技法について学び実習・臨床で活かせることを理解できる		講義 個人ワーク	人間関係論 7章
8	認知行動療法、コーチングスキルの看護への応用事例をもとに、看護師のかかわりと変化について具体的にとらえることができる		グループワーク	人間関係論 6章7章の事例検討
9	アサーティブコミュニケーションの理論と技法について学び様々な問題解決に活かせることを理解できる		講義 個人ワーク	人間関係論 8章
10	ロールプレイを通してそれぞれの発言の意味を考えることで受容的共感的態度について理解できる		グループワーク	ゼミナール事例 ① ～⑥
11	設定された状況の中で効果的コミュニケーションを実践し振り返ることができる		講義	基礎看護技術Ⅰ 1 章
12	コミュニケーション障害への対応について理解できる		講義・演習	基礎看護技術Ⅰ 1 章
13	看護・医療におけるコミュニケーションについて理解できる（看護の場面をとらえて）		演習	基礎看護技術Ⅰ 1 章
14	関係構築のためにコミュニケーションの基本について理解できる（看護の場面をとらえて）		講義・演習	基礎看護技術Ⅰ 1 章
15	まとめと終講試験			
評価方法 筆記試験 80% 課題レポート 20%			テキスト・参考書等 (医)人間関係論 基礎看護技術Ⅰ	
備考				
実務経験 高等教育機関における学識経験者が講義・演習を行う				

授業科目 自己洞察と他者理解	担当講師名 専任教員	単位数 時間数	1 単位 1 5 時間	対象学年 1 年次
学習目標（ねらい） 起こっている事象・現象における法則性（認識ののぼり・おり・よこばい）を日常で活用し、立場の変換過程（三重の関心を重ねる）を意図的に行うことを通して、自己洞察と他者理解を深めることができる。				
回数	学習のねらい	方法	学習上の留意点	
1	人間関係を構成する自己と他者の認識、看護と認識論の関係について理解できる	講義	テキスト P12～22 参照 プリント：認識論	
2	人間は、実体と認識・社会関係・生活過程があり、状況に応じ表現している存在であることを自己に照らして考えることができる	講義・ワークシート	自己を人間一般モデル図に表現し考える	
3	認識の「三段関連理論」を学び、相手の表現の洞察方法と認識の、のぼりおりの練習ができる（1）	講義・グループワーク	個人の体験を活用する	
4	相手の表現の洞察方法と認識の、のぼりおりの練習ができる（2）	グループワーク		
5	日常の事象を観念的二重化し、認識の発展を目指す練習（頭の中での作り替え）ができる	グループワーク		
6	観念的二重化により意図的に立場を変換することで相手に変化をもたらす過程を実感を伴い理解できる	グループワーク		
7	観念的二重化により意図的に立場を変換することで相手に変化をもたらす過程を、実感を伴い理解できる	グループワーク	立場変換の拡大からさらに解決方法（調和的解決）を考える	
8	筆記試験			
評価方法 授業への参加態度・毎回のレポート 30％ 最終レポート 70％		テキスト・参考書等 （医）人間関係論 プリント		
備考 看護を行う時には自分の認識を広げ、相手の立場に変換し、相手の認識を考えていく過程が大切になる。この科目では、日常生活を通して自分の認識を広げ相手との豊かな認識の返還ができるようにする。そのため毎回レポートを提出しそのレポートを教材にして考えていく授業となる。				
実務経験 本科目は看護師として実務経験のある教員による講義・演習を行う授業である				

授業科目 倫理の探求		担当講師名 専任教員	単位数 1単位 時間数 20時間	対象学年 3年次
学習目標(ねらい) 看護における倫理を実践的に学び看護師の責任と役割を自ら探求する態度と知識を習得する。				
回数	単元:学習のねらい		方法	学習上の留意点
1	倫理学の基本的な考え方と倫理理論、他者理解と対話のための理論について理解できる		講義	テキスト1章
2	生命倫理の歴史と原則とともに生命倫理と看護職の責務、守秘義務と個人情報保護について理解し自覚できる		講義	テキスト2章
3	性と生殖、死、先端医療と制度をめぐる生命倫理について理解し医療・看護における課題について考えることができる		講義 グループワーク	テキスト3～5章 現状と課題について調べ考察
4	性と生殖、死、先端医療と制度をめぐる生命倫理について理解し医療・看護における課題について考えることができる		講義 グループワーク	テキスト3～5章 現状と課題について調べ考察
5	看護倫理とは何か学び専門職としての社会的、倫理的責任について理解できる		講義	テキスト6.7章
6	倫理的な問題にアプローチするための基本的考え方、倫理的な意思決定を行うための具体的方法、研究倫理について理解できる		講義 グループワーク	テキスト8.9章 分析と考察提出
7	倫理的な問題にアプローチするための基本的考え方、倫理的な意思決定を行うための具体的方法、研究倫理について理解できる		講義 グループワーク	テキスト8.9章 分析と考察提出
8	事例分析を通して看護倫理の問題について考えることができる 小児看護、精神看護、母性看護、臨床試験における事例分析		講義 グループワーク	テキスト10章 分析と考察提出
9	事例分析を通して看護倫理の問題について考えることができる 小児看護、精神看護、母性看護、臨床試験における事例分析		講義 グループワーク	テキスト8.10章 分析と考察提出
10	筆記試験			
評価方法 授業参加度 10% 筆記試験 50% 課題レポート 40%			テキスト・参考書等 医)看護倫理	
備考				
実務経験 本科目は看護師として実務経験のある教員による講義・演習を行う授業である				

授業科目 情報科学	担当講師名 福元 伸也	単位数 1 単位 時間数 30 時間	対象学年 1 年次
学習目標（ねらい） 情報の取り扱いとセキュリティの理解を深め、適切な情報の取り扱いに関する基礎的知識を理解し遵守できる。ICTを活用するための基礎的能力を身につける。			
回数	単元：学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	情報の定義と特徴について理解できる	講義	
2	情報社会に求められるスキルとリテラシーについて理解できる	講義	
3	コンピューターとセキュリティについて理解できる	講義・演習	
4	基礎的パソコンの使用方法、文書作成方法を習得できる	講義・演習	
5	既存の情報収集方法を理解し文献やデータ検索のスキルを習得できる	講義・演習	
6	Excel の基本操作を習得できる	講義・演習	
7	Excel によるデータの種類の単純集計ができる	講義・演習	
8	Excel による検定・分析について理解できる	講義・演習	
9	文字情報の整理の基礎、レポートの書き方を習得できる	講義・演習	
10	ワープロソフトの使い方を理解し文書入力、保存、印刷方法を習得できる	講義・演習	
11	ワープロソフトの様々な機能の使い方を知りレポートやパンフレットに活用できる	講義・演習	
12	プレゼンテーションの攻勢について理解できる	講義・演習	
13	パワーポイントを使って資料作成し、プレゼンテーションの準備ができる	講義・演習	
14	保健医療における情報の活かし方について理解できる	講義	
15	保健医療における情報の守り方について理解できる	講義 ネットポ リス	
評価方法 筆記、実技試験		テキスト・参考書等 FOM 出版 富士通エフ・オー・エム 情報リテラシー	
備考			
実務経験 高等教育機関における学識経験者が講義・演習を行う			

授業科目 アカデミックスキル	担当講師名 廣森 五十鈴	単位数 時間数	1 単位 15 時間	対象学年 1 年次
学習目標（ねらい） 高等教育を学ぶ上で必要な学びの技法に関する基礎的理解を得る。				
回数	単元：学習のねらい		方法	学習上の留意点
1	アカデミックスキルの修得の目的と意義を理解し、主体的に学ぶ自己像を描くことができる 学び方の基礎を身につける。自分の考えを磨いていくプロセス ・看護学校での学び 知識・技術・態度のバランス 講義・実習・グループワーク 協調・体調管理・生活コントロール 主体的に 人間への関心といたわり 計画性と実行		講義	今後の学習について自覚する
2	スタディスキル ・学習支援ツール活用法 ノートの取り方、メモ活用、人の話を聞く力、文章の読み方、まとめ方 伝える力 自立・自律、主体的 課題 学習、自己学習について 資料の整理とファイリング ・授業評価 教える側と受講する側の相互作用		講義 演習 映像	学生便覧・授業要項の活用法 自分ノートの作り方
3	文章力とロジカルシンキング クリティカルシンキング ・文章の基本ルールと構成 読み手、目的、わかりやすい文、根拠、5W1H ・ロジカル（論理的）シンキング（考える） 誰もが分かる/納得の考え方 看護学生にロジカルシンキングがなぜ必要か 実例で考える		講義 演習 ワーク	倫理的思考・批判的思考を鍛える
4	レポートの書き方 簡潔、平易、客観的、謙虚、正確、主語・述語、句読点、専門用語、接続詞 文章のルール 字数、常体、論点、事実と分析 専門書等の読みとき		講義 演習	基本的ルールに基づいた文章能力の向上を目指す
5	情報リテラシーを理解し、活用することができる SNS 参加・責任 情報選別能力		講義	情報の正しい活用法を知る
6	成人学習能力について理解する リフレクション 社会人基礎力 ポートフォリオ		講義 演習	目標達成のための能力を考える
7	討議法について理解し、実際に設定したテーマについて表現できる ディベート、ディスカッション、カンファレンス		討議	基本的ルールのもと、自己を表現できる
8	試験			
評価方法 筆記試験 100 %			テキスト・参考書等 プリント	
備考 高等教育において自主的に学ぶこと、看護学校での学びの特徴や学び方を知る。				
実務経験 看護師として培った豊富な経験をもとに講義・演習を行う				

授業科目 論理学	担当講師名 外 菌 幸一	単位数 1 単位 時間数 20 時間	対象年次 1 年次
学習目標（ねらい） 日常生活における論理的思考の重要性や必要性を、議論や討論、論文執筆等における誤謬や欺瞞を回避する観点から考察し、コミュニケーション能力や文章表現能力を高めることができる。			
回数	単元：学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	論理学とは何かについて、「論理の字義」「論理学の歴史」「論理学の意義」などの観点から考察し、学習の必要性や意義を理解することができる	講義	パワーポイントの図による説明
2	論理学の基礎知識としての「概念」「定義」「外延と内包」などを正確に理解し、日常生活における言語使用の特徴を把握することができる	講義	配付プリント、パワーポイント
3	「形式論理学の基本法則」（同一律、矛盾律、排中律）を理解し、また、判断の分類、事実判断と価値判断の区別などについて考察することができる	講義	配付プリント、パワーポイント
4	「推理の種類」（帰納、演繹、類比）を文例を通じて理解し、それらの推理の区別を三段論法に直して説明することができる	講義	配付プリント、グループワーク
5	命題論理学における五種の基本的複合命題の記号化と、それぞれの真理値表を作成し、「逆・裏・待遇」について理解することができる	講義	配付プリント、グループワーク
6	日常生活の中で犯しがちな言語表現上の誤謬について、日本語の文法・語彙・同義語等の観点から学習し、正しい表現に直すことができる	講義	配付プリント、グループワーク
7	「日本語の論文作成の要点」を、論文の基本形式・文体の統一などの観点から学習し、論理的文章の諸条件を考察することができる	講義	配付プリント、パワーポイント
8	日本語による公用文作成の基本的技法について学習し、常用漢字表と音訓表、及び付表を活用した論文作成について理解することができる	講義	配付プリント、パワーポイント
9	日本語文法の基礎的構造を学習し、品詞の種類や活用の分類、形式名詞や補助動詞の特徴などについて正確に理解することができる	講義	配付プリント、パワーポイント
10	まとめと終講試験		
評価方法 筆記試験		テキスト・参考書等 各回プリントを配布 (教科書は使用しない)	
備考 授業では「論理的に思考し、表現し、文章化すること」「自己を客観視する冷静な判断力」に焦点を置き、具体的思考と実践的理解による理知的向上を目指す。			
実務経験 高等教育機関における学識経験者が講義を行う			

授業科目	担当講師名	単位数	1 単位	対象学年
看護のための心理学	森藤 悦子	時間数	30 時間	1 年次
学習目標（ねらい） 科学的な方法で分析・解釈した人間の心理や行動の原理を学ぶことによって、自己理解・他者理解を深めることができる。				
回数	単元：学習のねらい	方法	学習上の留意点	
1	「心理学とは」について理解を深める	講義	テキスト1章 予習	
2	感覚と知覚について理解できる	講義	テキスト2章 予習	
3	記憶について理解できる	講義	テキスト3章 予習	
4	思考・言語・知能について理解できる	講義	テキスト4章 予習	
5	学習とは、学習の理論について理解できる	講義	テキスト5章 予習	
6	感情と動機づけの理論について理解できる	講義	テキスト6章 予習	
7	性格とパーソナリティについて理解できる	講義	テキスト7章 予習	
8	性格の測定について理解し、性格検査を実施する	講義・演習	YG 性格検査	
9	社会的認知と態度の形成と変容について理解できる	講義	テキスト8章 予習	
10	対人関係、集団とリーダーシップについて理解できる	講義		
11	発達と発達段階について理解できる	講義	テキスト9章 予習	
12	心理臨床の観点から心の問題とアセスメント、心理療法について理解を深める	講義	テキスト10章 予習	
13	対人援助と患者心理について理解できる	講義	テキスト11章 予習	
14	看護職のストレスマネジメントについて理解できる	講義		
15	まとめと終講試験			
評価方法 筆記試験		テキスト・参考書等 (医) 心理学		
備考				
実務経験 本科目は心理学を教授する実務、カウンセラーの経験をもとに講義・演習を行う				

人間と生活・社会の理解

授業科目 看護英語	担当講師名 坂本 育生	単位数 1 単位 時間数 1 5 時間	対象学年 1 年次
学習目標（ねらい） 看護の場面における英語コミュニケーション能力を培うことができる。			
回数	単元：学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	英語コミュニケーションにおける基礎英語を理解できる	講義	
2	病院の受付、外来初診の英会話を理解できる	講義 グループ ワーク	
3	主要な疾患に関する医学英語について理解できる	講義	
4	主要な症状に関する医学英語について理解できる	講義	
5	看護の場面における簡単な会話のヒアリングができる	講義	
6	看護の診療場面の簡単な英会話ができる	講義 グループ ワーク	
7	看護の入院場面の簡単な英会話ができる	講義 グループ ワーク	
8	終講試験		
評価方法 筆記試験・ヒアリング		テキスト・参考書等 やさしい看護英語	
備考			
実務経験 高等教育機関における学識経験者が講義・演習を行う			

授業科目 看護のための社会学	担当講師名 新名主 雪絵 24 H 専任教員 6 H	単位数 1 単位 時間数 30 時間	対象学年 1 年次
学習目標（ねらい） 社会についての理解を深め、多角的に思考し看護や看護職が社会にどのようにかかわり位置づけられているか理解する。			
回数	単元：学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	社会学の基礎概念について理解できる	講義	テキスト 1 章の予習
2	社会的存在としての人間について理解できる	講義	テキスト 1 章プリント
3	社会学的想像力、社会学的視点とモデルについて理解できる	講義	テキスト 2 章プリント
4	保健医療と社会学について理解できる	講義	テキスト 3 章プリント
5	社会における健康・病気・ストレスの見方・とらえ方について理解できる	講義	テキスト 5 章
6	健康・病気の社会格差の現状と今後の課題について理解できる	講義	テキスト 6 章予習
7	「働き方」「働かせ方」と健康・病気について理解できる	講義	テキスト 7 章予習
8	健康・病気行動・ヘルスリテラシーについて理解できる	講義	テキスト 8 章予習
9	患者・医療者関係、患者中心の医療について考え、社会と医療について理解できる	講義	テキスト 9 章予習
10	専門職論と変容、看護職論の現在について理解できる	講義	テキスト 10 章予習
11	保健医療の利用者と提供者を取り巻く社会環境をなすジェンダー・家族・地域社会と保健医療制度について理解できる	講義	テキスト 11 章予習
12	地域社会の変容過程、地域社会と保健医療について理解できる	講義	テキスト 12 章 13 章、14 章
13	現代社会の変容とケア論について理解できる	講義・演習	テキスト 15 章
14	変化する現代社会で看護ケアの提供者に重要な社会的想像力について理解できる	講義・演習	
15	まとめと終講試験		
評価方法 筆記試験 80 % 課題レポート 20 %		テキスト・参考書等 (医) 社会学 プリント	
備考			
実務経験 高等教育機関における学識経験者が講義・演習を行う			

授業科目 教育学	担当講師名 高谷 哲也	単位数 1 単位 時間数 30 時間	対象学年 1 年次
学習目標（ねらい） 教育と学習の本質を理解し人間の成長発達における教育の作用と専門職種としての教育について、基礎的理解を深める。			
回数	単元：学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	教育学を学ぶ目的と教育の概念を理解できる	講義	
2	教育の意義と役割について理解できる	講義・映像 視聴	
3	人間の学習と成長・発達について理解できる	講義	
4	意図的な人間形成作用、自主的な学習と生活との関連、社会 変動と教育について理解できる	講義	
5	教育方法の基本原則と個別学習と集団学習について理解で きる	ワークシ ョップ	
6	教育者と学習者の関係の整理を行い教えることと学ぶこと について理解できる	ワークシ ョップ	
7	自己主導学習と省察を通じた専門職の成長について理解で きる	講義	
8	「教える－学ぶ」の関係の中でおきること、学習者に働く見 えない力について理解できる	講義	
9	学習形態の特徴と学び合いについて理解できる	講義・映像 視聴	
10	学習者の成長可能性への着目について理解できる	講義・映像 視聴	
11	学習者の想いと教育者の役割について理解できる	講義・映像 視聴	
12	教育の目標と評価の意義、相互評価を通じた教育評価につい て理解できる	ワークシ ョップ	
13	専門職教育、生涯学習、成人の学習の特徴と支援についてに ついて理解できる	講義	
14	成人学習者としての自己主導性と看護を自律して学ぶ力に ついて自己の学び方を通して考える	講義	
15	まとめと終講試験		
評価方法 演習課題ワークシート 全15回の記録シート 論述試験		テキスト・参考書等 （医）教育学	
備考 授業では教育という営みと看護という営みの共通性や関係性について、実感を伴った整理を行う。 「教える」―「学ぶ」関係性について、自己の経験と専門的知見の両面から確認できるようにする。			
実務経験 高等教育機関における学識経験者が講義・演習を行う			

授業科目	担当講師名	単位数	1 単位	対象年次
人間の探求	外 菌 幸一	時間数	2 0 時間	1 年次
学習目標（ねらい）				
「人間とは何か」について多角的に探究し、人間の実存的構造を洞察することによって、自己生存の意義について考えることができる。				
回数	単元：学習のねらい		方法	学習上の留意点
1	「人間精神と善悪意識」の問題を「人間にとっての死」と連関させることによって、生命活動の多層性と調和について考えることができる		講義	パワーポイントによる図示
2	「人と人間」の問題を語源的解釈から究明することを通じて、「個人性と社会性の統一性」としての人間存在について理解することができる		講義	配付プリント、パワーポイント
3	「人間の精神作用」としての「心」を科学的に考察することによって、脳と心の関係、心身調和の必要性などについて理解することができる		講義	配付プリント、パワーポイント
4	「人間存在の個別性と全体性」について、「いのちと生命の連関性」「遺伝情報と文化情報」などの視点から深く考察することができる		講義	配付プリント、パワーポイント
5	「病気と健康」について、「心身の調和と不調和」の観点から考察し、「新しい世界観の構築による生命力の回復」について考えることができる		講義	配付プリント、パワーポイント
6	「人間の深層心理」の問題を仏教の唯識思想を手掛かりに考察し、個人の孤独感を克服する「宗教的癒し」について考察を深めることができる		講義	配付プリント、パワーポイント
7	代表的な「三種の人間観」（理性的、感性的、実存的）の相違点を理解し、幸福の原理としての「愛と自由」について深く考察することができる		講義	配付プリント、パワーポイント
8	「人間相互のコミュニケーション」に関わる「愛の本質」や「愛の構造」について、哲学的、道徳的視点から深く考察することができる		講義	配付プリント、パワーポイント
9	人間的活動に深く関わる愛の利点や欠点について、色々な愛の形態を比較考察することを通じて理解し、看護活動に役立てることができる		講義	配付プリント、パワーポイント
10	まとめと終講試験		講義	
評価方法			テキスト・参考書等	
筆記試験（外来講師 8 0 %、専任教員 2 0 %）			各回プリントを配布 （教科書は使用しない）	
備考				
授業では人間存在の構造（多層性や深層性）について考察を深め、看護のメタパラダイムとしての「人間」を探究し続ける基礎的能力を養成する。				
実務経験				
高等教育機関における学識経験者が講義を行う				

授業科目 健康と生活	担当講師名 大山 もと子	単位数 1 単位 時間数 20 時間	対象学年 1 年次
学習目標（ねらい） 人間の健康と生活における多角的・多面的視点について理解を深め、地域包括ケア・地域福祉と人々の健康・生活の関連について考えることができる。			
回数	単元：学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	人間の健康と生活における多角的・多面的視点の理解 ・日常性、日常生活、個人の生活の多面的とらえ方	講義	
2	人間の健康と生活における多角的・多面的視点の理解 ・その人の生活の理解と把握・ライフスタイルと QOL	講義	ICFモデルの活用
3	人間の健康と生活における多角的・多面的視点の理解 ・健康の定義 ・力、資源としての健康	講義	
4	健康生成論とヘルスリテラシー、健康行動 ヘルスプロモーション活動モデル、健康21（第3次）の理解	講義	
5	社会的な健康、ソーシャルキャピタルの理解 ・安全・安寧が保障される社会、地域での健康づくり ・健康の社会的決定要因と健康格差 ・誰もが健康になれるしくみ（もっとイノベーション、活動・参加、ウェルビーイングを増やすしくみ）	講義	
6	地域福祉の理念をもとに「地域で生活すること」「その人らしい生き方」について事例検討・共有	講義、グループワーク	
7	地域包括ケアの理念をもとに「地域で生活すること」「その人らしい生き方」について事例検討・共有	講義、グループワーク	
8	その人の健康と生活が様々な要因と関連しながら維持・改善していくことのイメージ化（健康と生活イメージ図作成）	講義、グループワーク	
9	その人の健康と生活が様々な要因と関連しながら維持・改善していくことのイメージ化（健康と生活イメージ図作成） 自己の「生活・健康観」の説明	講義 グループワーク	グループ発表 課題レポート
10	まとめと終講試験		
評価方法 筆記試験 50％ グループワーク・課題レポート 50％		テキスト・参考書等 プリント	
備考 これから看護を学ぶ上で考え方の土台となるものである。			
実務経験 本科目は看護師として実務経験のある教員による講義・演習を行う授業である			

授業科目	担当講師名	単位数	1 単位	対象学年
人間の暮らし	専任教員	時間数	1 5 時間	1 年次
学習目標（ねらい） 地域での具体的な暮らしについて理解を深めることにより、日常の生活である「暮らし」について看護の視野を広げることができる。				
回数	単元：学習のねらい	方法	学習上の留意点	
1	プロジェクトの目標と学習の進め方について理解できる	講義	入学 OR のフィールドワーク資料使用	
2	プロジェクトチームを結成し、課題取り組みの検討ができる	グループワーク		
3	チームメンバーで意見を出し合い地域の暮らしを様々な角度から見るができる	グループワーク	文献検索、フィールドワーク情報収集	
4	白地図に、地域の暮らしについて情報収集した内容から意見を出し合いアセスメントができる	グループワーク		
5	日常の中でのインフラ、病院、葬儀場、買い物の場、集まる場（公民館など）、町内会などの互助会、などの暮らしの追加情報とアセスメントができる	グループワーク	パソコン室、ノートパソコン使用	
6	プレゼンテーションの事前準備ができる	グループワーク		
7	成果を発表しあい、人間の暮らしのプロジェクト学習の成果は何に役立つのかを理解できる	発表 講評	講評は学生同士、複数教員で行う	
8	まとめ 人間の暮らしと看護について関連付けて理解できる			
評価方法 授業参加度 50% 筆記試験 50%		テキスト・参考書等		
備考 プロジェクトチームの一人一人の力の結集が重要となります。				
実務経験 本科目は看護師として実務経験のある教員による講義・演習を行う授業である				

授業科目 保健体育	担当講師名 浜田 幸史	単位数 1 単位 時間数 1 5 時間	対象学年 1 年次
学習目標（ねらい） 日常生活におけるレクリエーションを学び、自己の健康と看護の場への活用方法を理解できる。			
回数	単元：学習のねらい	方法	学習上の留意点
1	レクリエーションの理論について理解できる	講義	
2	レクリエーションの理論を実技を通して理解できる	講義・実技	
3	レクリエーション計画と指導の原則を理解できる	講義・実技	
4	遊びリテーションの意義について理解できる	講義・実技	
5	遊びリテーション内容と進め方を理解し実際に行うことができる	講義・実技	
6	遊びリテーション内容と進め方を理解し対象の持てる力に応じて行うことができる	講義・実技	
7	保育園、施設にいる対象を想定しゲーム等の指導実践ができる	講義・実技	
8	まとめ	課題 レポート	
評価方法 課題レポート・課題達成度		テキスト・参考書等 プリント	
備考 授業では様々な対象に応じた遊びリテーションを実施し、自己の健康や看護の場に活用できるようにする。			
実務経験 高等教育機関における学識経験者が講義・実技を行う			